

にぎわい

東北版

平成23年1月

Vol.151

～日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信～

目次	● 賑わいのあるみなとまちを目指して	1
	● みなとオアシス活性化研究会を開催	2



青森県

青森県青森市

賑わいのあるみなとまちを目指して

～東北新幹線新青森駅開業～

東北地方整備局 青森港湾事務所

12月4日(土)、東北新幹線が全線開業し、県都青森市では新青森駅が開業しました。これまで青森市の玄関口であった青森駅の他に東京駅と直接結ばれる新たな交通拠点の誕生となり、青森市民にとって感慨深く記憶に残る日となりました。

開業前より市内各所において、新青森駅開業を祝う様々なイベントが行われ、開業当日には子どもたちに大人気の「ミッキーマウスとディズニーの仲間たち」が新青森駅前と青森駅近くの中心市街地で「東京ディズニーリゾート・スペシャルパレード」を行ったり、青森ねぶたの大型ねぶたが出陣したりと街は祝賀モード一色となりました。

新幹線の開業により、首都圏からぐっと近くなったということはビジネスマンだけではなく多くの観光客が青森県を訪れやすくなったということになります。近年は外国人の観光客も多く見られるようになりました。青森県は豊かな自然や温泉、人情といったものが売りとなっていますが、夏の青森ねぶた等に多くの観光客が集中しすぎるため、冬にもう少し賑わいをという思いがあり、通年で観光客に来てもらうことが目標となっています。

一方で、かつて当たり前であった青森駅前の青函連絡船を利用する人々でごったがえしていた風景も交通体系の変化や経済低迷、人口減少等により今は見る事ができなくなりました。中でも青森駅前から中心市街地にかけての一带の賑わい創出が現在の課題となっており、地元ではいろいろな取り組みが始まっています。

青森駅前では新青森駅開業にあわせ、りんごの加工を行う「工房」と「市場」の複合施設「A-FACTORY」や文化観光交流施設「ねぶたの家 ワ・ラッセ」が建てられました。冬のイベントとして、ねぶた技術を活かし、温かなひかりで八甲田丸までのみちを照らす「あおり灯りと紙のページェント」も行われています。

また、青森港においてクルーズ客船が寄港する新中央埠頭は、青森駅から徒歩で行ける距離にあることから、



新青森駅構内



ページェントとA-FACTORY

東北新幹線を利用して青森港から旅立つ「レールアンドクルーズ」という選択肢もできました。更に、7月には北前船(復元)による日本海周航も計画されています。「北前船日本海文化交流事業」(仮称)という計画で、北海道、青森県、秋田県、山形県、新潟県、富山県、石川県、福井県、島根県各県の北前船にゆかりのあるみなとまちを「みちのく丸※1」が江戸時代の航海技術を披露しながら帆走し、訪問する予定となっております。新青森駅開業により、北東北日本海側諸県との移動時間も短縮されることから、各寄港地にて青森県の観光や物産についての紹介を行う予定としております。新幹線開業の他にもこのような取り組みを通じて、“じゃわめく※2”ことのできるみなとまちを市民のおもてなしの心や地域振興の熱意でつくりあげることが重要であると思います。

※1みちのく丸=青森市にあるみちのく北方漁船博物館が所有している現存する唯一の復元北前船。
大河ドラマ「篤姫」の撮影にも使用された。

※2じゃわめく=津軽弁で ぞくぞくする という言葉。



秋田県秋田市

東北みなとオアシス活性化研究会を開催！

～「みなとオアシスあきた」で開催～

東北地方整備局 港湾空港部

11月24日(水)、「みなとオアシスあきた」内にある秋田市ポートタワーセリオンにて「東北みなとオアシス活性化研究会」を開催しました。本研究会は、東北の各みなとオアシスに携わる担当者が一同に集まり活動報告や意見交換を通じて連携及び活性化を図る場として毎年開催しているものです。

本研究会では、「みなとオアシスあきた」の現地視察に続き、基調講演が行なわれました。基調講演では、本年度、「みなとまちづくりマイスター」に認定された大間町まちおこしゲリラ集団の島康子氏に、「突端からのかんぢえ(風)おこし」と題し、あおぞら組の活動等を中心に講演頂きました。各みなとオアシスの担当者は、あおぞら組の大胆な取り組みに驚くと同時に興味深く聞き入っている様子でした。その後、意見交換では、各担当者が日頃抱えている問題に加え、みなとオアシスの認知度を向上させるため、「各みなとオアシスが連携して、同時期に同じイベントを開催してはどうか?」、「道の駅」とは違った海や港に関わるイベントを全面に出してPRすべき」といった意見が出されました。

東北地方整備局では、今後も東北の各みなとオアシスの連携及び活性化を図れるよう各種取り組みを行って参ります。



研究会の様子



基調講演を行う 島氏

【編集・お問い合わせ】

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局

国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 広報・振興担当

TEL: 022-716-0003 FAX: 022-716-0017 E-mail: info-k82ab@pa.thr.mlit.go.jp